



**A案** - 地上5階 高さ49.2m



屋根に木材を用いる「五重の塔」／5階の散策路にも植栽

新国立競技場2提案

地上5階に植栽をするA案、高さ19.5mの巨大な木製柱を使うB案。2020年東京五輪・パラリンピックのメイン会場となる新国立競技場に対する2組の提案は、いずれも「日本らしさ」に挑んだ。

木と緑にこだわったA案は屋根に木材を使う。屋根や各階にひさしがあり、見上げたときに見える連続した縦格子のデザインは五重の塔を思

魅せる「和」

わせる。5階には散策路も。植栽された草木と神宮外苑の緑を調和させる。

B案の木製の柱は縄文遺跡や神社を意識している。72本の柱が支える屋根は天空のイメージで緩やかに波打ち、スタンドから浮遊するよう。スタジアム外周の壁面には、「神宮の柱」を表現したレリーフを設置する。

(新国立競技場のイラストはいずれも技術提案書より、日本スポーツ振興センター提供)



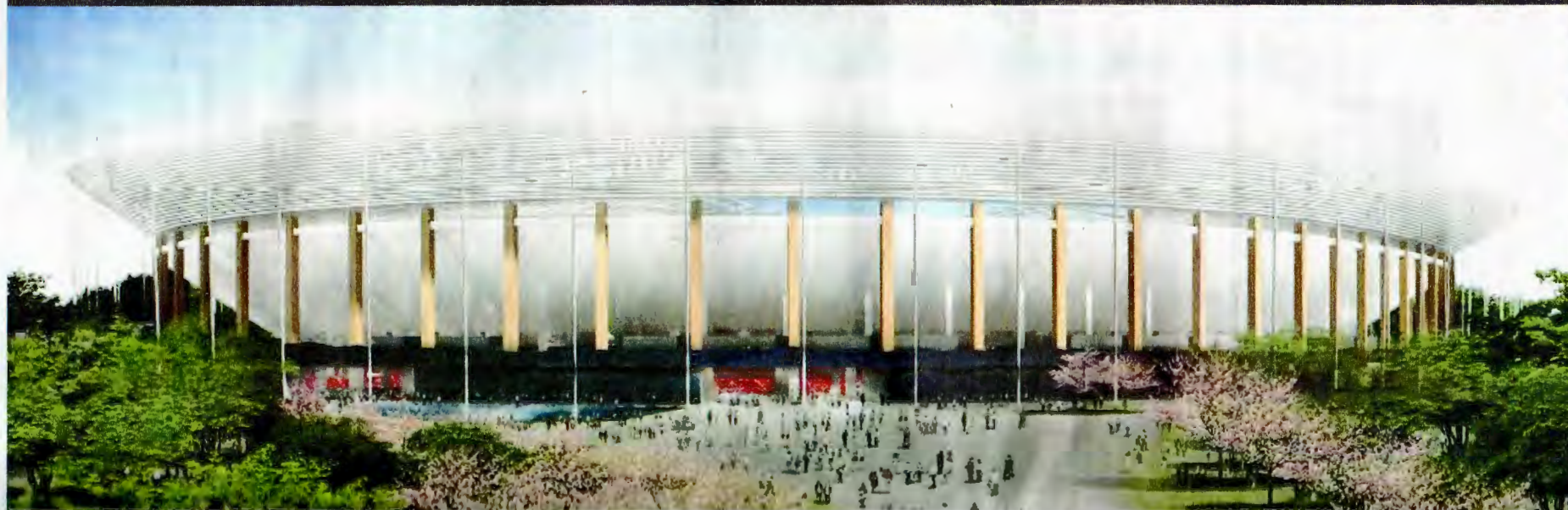
解体される前の国立競技場。2014年1月1日、新宿区で、本社へ「おおづる」から

お断り、「鉄学しましよ」は休みました。

文・飯田孝幸／写真・坪真一  
紙面構成・宮崎雅仁



19.5m木製柱で縄文遺跡や神社を意識／屋根は波打つ天空



**B案** - 地上3階 高さ54.3m

